正法寺

正法寺は仏法寺山の麓にある禅寺で、秋の紅葉の名所として人気があります。特に入り口付近では、境内のカエデの木々が緑と赤の鮮やかな色合いになります。一年を通じてさまざまな時期にツツジ、アヤメ、沙羅双樹（学名：Shorea robusta）などの植物が木々に覆われた丘に彩りを添えます。

伝説によると、正法寺は近くに埋葬された安積親王（728～744 年）の冥福を祈るために 744 年に創建されました。現在の寺は、17 世紀半ばに後水尾天皇との結婚で和束荘を与えられた徳川和子皇后（東福門院、1607～1678 年）の支援をうけ、仏光寺城主であった田村家によって建立されました。

境内には 2 つの京都府指定有形文化財である、京都仙洞御所から移築された山門と阿弥陀如来像を安置する仏殿があります。また、庚申の神や旅人や子供の守り神である地蔵菩薩を祀る小さなお堂もあり、そのお堂の間には十二支の動物を抱いた丸顔の地蔵像が 12 体あります。

本堂には徳川和子が寄進した聖観音像が安置されています。本堂に入って拝観したい場合は、寺の職員に問い合わせてください。

アクセス

和束山の家バス停から大きな交差点を左折し、徒歩約 8 分。